

# 日本学会議

## 説明資料

令和3年7月1日

日本学会議の在り方に関する政策討議(第2回)

梶田 隆章

# 本日の報告内容

- 前回の会合での質問事項1：
  - 提言などについて
  - 提言活動などの今後の方針
- 前回の会合での質問事項2：
  - 財政基盤について
  - 各国アカデミーの状況
- アカデミー会長経験者等との意見交換会など、国際活動について

# 前回の会合での質問事項1：提言などについて

# 日本学術会議の意思の表出方法

表出方法	根拠	定義	表出主体	位置づけ
答申	法第4条	政府からの諮問を受けて答申	学術会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長より諮問者に手交、必要に応じ事務連絡で各省庁に配布</li> </ul>
勸告	法第5条	法第5条各号に掲げる事項について、学術会議が政府に対して意思を表出	学術会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長より総理に手交、会長名で各大臣宛て配布</li> </ul>
要望	会則第2条第1号	法第5条各号に掲げる事項に関し、学術会議が政府及び関係機関等の実現を望む意思を表出	学術会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長名で各大臣宛て公文、事務連絡で各省庁に配布</li> <li>・他の機関における取組を期待することに重点が置かれている。</li> </ul>
声明	会則第2条第2号	法第5条各号に掲げる事項に関し、学術会議がその目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表	学術会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長名で各大臣宛て公文、事務連絡で各省庁に配布</li> <li>・学術会議自らが取り組んでいくことに重点が置かれている。</li> </ul>
提言	会則第2条第3号	法第5条各号に掲げる事項に関し、部、委員会、分科会又は若手アカデミーが実現を望む意見等を発表	学術会議（委員会、分科会等名を付記）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務連絡で各省庁に配布</li> <li>・学術的な分析と関係機関への提言を内容とするもの</li> <li>・20ページ程度</li> </ul>
報告	会則第2条第4号	法第5条各号に掲げる事項に関し、部、委員会、分科会又は若手アカデミーが審議の結果を発表	学術会議（委員会、分科会等名を付記）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務連絡で各省庁に配布</li> <li>・提言にまで至らない事項について、審議の結果を発表するもの</li> </ul>
回答	会則第2条第5号	関係機関からの審議依頼（法第4条の諮問を除く）事項に対し、学術会議が回答	学術会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長より審議依頼者に手交、必要に応じ事務連絡で各省庁に配布</li> <li>・関係機関からの審議依頼に対して、学術会議の名前で回答を行うもの</li> </ul>

# 日本学術会議の活動状況（第1期～第24期）

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期	計	
	(S24 (1949) .1 S26 (1951) .1)	(S26 (1951) .1 S29 (1954) .1)	(S29 (1954) .1 S32 (1957) .1)	(S32 (1957) .1 S35 (1960) .1)	(S35 (1960) .1 S38 (1963) .1)	(S38 (1963) .1 S41 (1966) .1)	(S41 (1966) .1 S44 (1969) .1)	(S44 (1969) .1 S47 (1972) .1)	(S47 (1972) .1 S50 (1975) .1)	(S50 (1975) .1 S53 (1978) .1)	(S53 (1978) .1 S56 (1981) .1)	(S56 (1981) .1 S60 (1985) .7)	(S60 (1985) .7 S63 (1988) .7)	(S63 (1988) .7 H3 (1991) .7)	(H3 (1991) .7 H6 (1994) .7)	(H6 (1994) .7 H9 (1997) .7)	(H9 (1997) .7 H12 (2000) .7)	(H12 (2000) .7 H15 (2003) .9)	(H15 (2003) .9 H17 (2005) .9)	(H17 (2005) .9 H20 (2008) .9)	(H20 (2008) .9 H23 (2011) .9)	(H23 (2011) .9 H26 (2014) .9)	(H26 (2014) .9 H29 (2017) .9)	(H29 (2017) .9 R2 (2020) .9)		
答申	21	16	12	9	7	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	71	
勧告	16	8	1	28	47	29	29	27	27	8	14	9	5	5	1	2	2	0	1	0	1	0	0	0	260	
回答																				2	2	3	1	3	11	
提言																					34	61	70	71	85	321
報告・対 外報告													13	49	61	71	80	69	80	44	29	49	45	23	613	
要望・ 声明等	59	50	41	36	9	16	47	39	41	22	29	29	4	3	6	3	6	3	8	6	1	1	1	0	460	
その他	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4	5	4	15	20	20	12	23	23	133	
計	96	74	54	74	65	50	76	66	68	30	45	38	22	57	68	80	93	77	105	107	114	135	141	134	1869	

1 H13(2001).1 総務省へ移管

2 H17(2005).4 内閣府へ移管

3 回答・提言・報告は、H15(2003)年のCSTP提言を踏まえ会則に規定

4

# 近年の主な意思の表出の例 : 政策への影響

発出日	意思の表出		概要
H21.4.7	要望	「宇宙科学推進に関する要望」	宇宙科学の研究体制強化のため、JAXAの宇宙科学研究本部（ISAS）の大学共同利用体制の維持・確保、高度な人材育成のための実験参加や国際経験等の機会の拡大等について要望。 '。H21年6月、宇宙基本計画に趣旨が反映
H22.8.25	勧告	「総合的な科学・技術政策の確立による科学・技術研究の持続的振興に向けて」	政府における総合科学技術会議の在り方の検討を機として、科学技術基本法の見直しを行い、人文・社会科学を対象とすること、基礎科学・開発研究等の推進や研究基盤の強化、次世代研究者等の育成・確保等について盛り込むことを勧告。 '。R2年、科学技術・イノベーション基本法に趣旨が反映
H28.7.6	提言	「オープン・イノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」	研究データのオープン化により、研究活動の迅速化や異分野融合、社会実装を推進するため、研究分野を超えた研究データの管理及びオープン化を可能とする研究データ基盤の整備、各研究コミュニティでのデータ戦略の確立、データ生産者及びデータ流通者のキャリア形成支援等について提言。 '。H29年4月、国立情報学研究所にオープンサイエンス基盤研究センターが新設
R1.11.6	提言	「第6期科学技術基本計画に向けての提言」	博士課程学生への経済的支援の拡充・キャリアパスの多様化、学術の多様性に資する公的研究資金制度全体のグランドデザインの再構築等について提言。 '。R3年3月、科学技術・イノベーション基本計画に趣旨が反映

# 近年の主な意思の表出の例 : 中長期的視点や分野横断的な観点からの審議

## ○ with/postコロナにおける医療体制や社会のあり方についての議論

新型コロナウイルス感染症に関して提言2回、共同声明2回、幹事会声明2回、会長談話1回を発出

- ・令和2年2月 「大規模感染症予防・制圧体制検討分科会」設置
- ・令和2年3月 幹事会声明「新型コロナウイルス感染症対策に関するみなさまへのお願いと、今後の日本学術会議の対応」
- ・令和2年7月 提言「感染症の予防と制御を目指した常置組織の創設について」
- ・令和2年9月 提言「感染症対策と社会変革に向けたICT基盤強化とデジタル変革の推進」  
サイエンス20共同声明「フォーサイト；重大な転換へと導くための科学」
- ・令和3年2月 幹事会声明「新型コロナウイルス感染症対策の検討について」
- ・令和3年3月 Gサイエンス学術会議共同声明「世界的な公衆衛生上の緊急事態のためのデータ：ガバナンス、オペレーション、スキル」
- ・令和3年6月 日本学術会議会長談話「新型コロナウイルス感染症とワクチン接種をめぐって」

学術フォーラム、公開シンポジウム等の公開イベントをこれまでに23回開催（R3.7.1現在。今後も継続して開催予定。）

## ○ ゲノム編集技術のヒト胚への応用についての議論

ゲノム編集技術のヒト胚への応用に関して提言3回、幹事会声明1回を発出

- ・平成29年9月 提言「我が国の医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方」  
英訳版も作成し、国際会議においても内容を説明
- ・平成30年12月 幹事会声明「『ゲノム編集による子ども』の誕生について」
- ・令和2年3月 提言「ゲノム編集技術のヒト胚等への臨床応用に対する法規制のあり方について」
- ・令和2年8月 提言「人の生殖にゲノム編集技術を用いることの倫理的正当性について」

公開シンポジウム等の公開イベントをこれまでに7回開催（R3.7.1現在。今後も継続して開催予定。）

# (参考) 提言一覧 (第24期)

決定年月日	名称	表出の主体	取組想定 省庁	備考			
				緊急・ 災害	法令・ 計画	組織・ 予算	国際 関係
2020/09/30	教育のデジタル化を踏まえた学習データの利活用に関する提言 - エビデンスに基づく教育に向けて -	心理学・教育学委員会・情報学委員会合同 教育データ利活用分科会	文、経、総				
2020/09/29	社会と学術における男女共同参画の実現を目指して 2030年に向けた課題	科学者委員会男女共同参画分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会	府、文、厚等				
2020/09/29	わが国の経営学大学院における教育研究の国際通用性のある質保証に向けて	経営学委員会経営学大学院における認証評価の国際通用性に関する分科会	文				
2020/09/29	「同意の有無」を中核に置く刑法改正に向けて 性暴力に対する国際人権基準の反映	法学委員会ジェンダー法分科会、社会学委員会ジェンダー政策分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会	法				
2020/09/28	学術情報流通の大変革時代に向けた学術情報環境の再構築と国際競争力強化	第三部理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会					
2020/09/25	我が国の子どもの成育環境の改善にむけて - 成育空間の課題と提言2020 -	心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会	財、府、法、厚、国、環、文、警、農				
2020/09/23	性的マイノリティの権利保障をめざして( ) トランスジェンダーの尊厳を保障するための法整備に向けて -	法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会	法				
2020/09/18	災害レジリエンスの強化による持続可能な国際社会実現のための学術からの提言 - 知の統合を实践するためのオンライン・システムの構築とファシリテータの育成 -	科学技術を活かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会					
2020/09/18	行政記録情報の活用に向けて	経済学委員会数量的経済・政策分析分科会	官房、総、国税				
2020/09/18	我が国における移植医療と再生医療の発展と普及	臨床医学委員会移植・再生医療分科会	経、文、厚				
2020/09/15	感染症対策と社会変革に向けたICT基盤強化とデジタル変革の推進	第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会、情報学委員会ユビキタス状況認識社会基盤分科会	厚、文、総、経、府、個人情報委、官房等				
2020/09/14	社会的モニタリングとアーカイブ 復興過程の検証と再帰的ガバナンス	社会学委員会東日本大震災後の社会的モニタリングと復興の課題検討分科会	内、復興				
2020/09/14	シチズンサイエンスを推進する社会システムの構築を目指して	若手アカデミー	文等				
2020/09/11	地域包括ケアシステム構築のために求められる歯科保健医療体制	歯学委員会病態系歯学分科会臨床系歯学分科会	厚				
2020/09/11	認知症に対する学術の役割 - 「共生」と「予防」に向けて -	認知障害に関する包括的検討委員会	厚、経、法、文				
2020/09/11	活力ある超高齢社会の構築に向けて - これからの日本の医学・医療、そして社会のあり方 -	臨床医学委員会老化分科会	文、厚、府				
2020/09/07	子ども・妊婦への受動喫煙対策をさらに充実させるべきである	健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会	厚、文、財等				
2020/09/07	被服学分野の資格教育の現状と展望	健康・生活科学委員会家政学分科会	経、消等				
2020/09/07	未来のための心理学の市民社会貢献に向けて	心理学・教育学委員会心理学教育プログラム検討分科会及び健康・医療と心理学分科会	文、厚				
2020/09/07	人口減少社会に対応した農業情報システム科学の課題と展望	農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分科会	官房、府、農等				
2020/09/04	持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽	薬学委員会薬剤師職能とキャリアパス分科会	厚、文				
2020/09/02	「地元創成」の実現に向けた看護学と社会との協働の推進	健康・生活科学委員会看護学分科会	文、厚、府				
2020/09/02	ケアサイエンスの基盤形成と未来社会の創造	臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会	文、厚				
2020/09/01	国土構造の将来像を踏まえた第2期地方創生施策の実施に向けて	地域研究委員会人文・経済地理学分科会	官房、国交				
2020/09/01	不透明化する世界と地域研究の推進 - ネットワーク化による体制の強化に向けて -	地域研究委員会地域研究基盤強化分科会	文、外、経				

「緊急・災害」緊急に科学的助言が求められる事態や災害対応について提言するもの。「法令・計画」法令・計画への反映について提言するもの。「組織・予算」組織や予算の拡充について提言するもの。「国際関係」国際的な課題について提言するもの。

# (参考) 提言一覧 (第24期)

決定年月日	名称	表出の主体	取組想定 省庁	備考			
				緊急・ 災害	法令・ 計画	組織・ 予算	国際 関係
2020/08/31	発達障害への多領域・多職種連携による支援と育成医療の推進	臨床医学委員会 出生・発達分科会	厚、文				
2020/08/31	ゲノム医療推進に向けた体制整備と人材育成	臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会	官房、厚、文				
2020/08/28	工学システムの社会安全目標の新体系	総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会	府、総、文、 経、国、厚、 農、環、防等				
2020/08/28	物理学における学問分野に基づく教育研究(DBER)の推進	物理学委員会物理教育研究分科会	文				
2020/08/27	博物館法改正へ向けての更なる提言～2017年提言を踏まえて～	史学委員会博物館・美術館等の組織運営に関する分科会	文化庁				
2020/08/26	すべての人に無償の普通教育を多様な市民の教育システムへの包摂に向けて	心理学・教育学委員会排除・包摂と教育分科会	文				
2020/08/25	気候変動に伴い激甚化する災害に対しグリーンインフラを活用した国土形成により"いのちまち"を創る	環境学委員会都市と自然と環境分科会	国、環、農				
2020/08/25	人類の未来を開くフロンティア人工物工学の展開のために	総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会	文、経、国、 環、府、総				
2020/08/25	「地理総合」で変わる新しい地理教育の充実に向けて 持続可能な社会づくりに貢献する地理的資質能力の育成	地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会	文、国交、総、 経、環				
2020/08/24	「人口縮小社会」という未来 - 持続可能な幸福社会をつくる -	人口縮小社会における問題解決のための検討委員会	文				
2020/08/18	大学入試における英語試験のあり方についての提言	言語・文学委員会文化の邂逅と言語分科会	文				
2020/08/11	外国人の子どもの教育を受ける権利と修学の保障 公立高校の「入口」から「出口」まで	地域研究委員会多文化共生分科会	文、総				
2020/08/11	生活習慣病予防のための良好な育成環境・生活習慣の確保に係る基盤づくりと教育の重要性	臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会	環、文、厚等				
2020/08/04	自動運転の社会的課題について-新たなモビリティによる社会のデザイン-	自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会	官房、府、文、 経等				
2020/08/04	新学習指導要領下での算数・数学教育の円滑な実施に向けた緊急提言:統計教育の実効性の向上に焦点を当てて	数理科学委員会数学教育分科会	文				
2020/08/04	人の生殖にゲノム編集技術を用いることの倫理的正当性について	哲学委員会いのちと心を考える分科会	厚、府				
2020/07/27	住居領域における専門教育と資格教育のあり方	健康・生活科学委員会家政学分科会					
2020/07/27	健康栄養教育を担う管理栄養士の役割	健康・生活科学委員会家政学分科会					
2020/07/21	より良い近未来創造のためのロボットAIの理解と人材育成	機械工学委員会ロボット学分科会	文、経、厚、 農、国、総、府				
2020/07/14	持続可能な人間社会の基盤としての我が国の地球衛星観測のあり方	地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会	府、文				
2020/07/10	Web調査の有効な学術的活用を目指して	社会学委員会Web調査の課題に関する検討分科会					
2020/07/07	化学・情報科学の融合による新化学創成に向けて	化学委員会化学企画分科会	文、経				
2020/07/07	サステナブルで個人が主体的に活躍できる社会を構築するサービス学	経営学委員会・総合工学委員会合同サービス学分科会	文				
2020/07/03	感染症の予防と制御を目指した常置組織の創設について	第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会	府				
2020/06/30	高校国語教育の改善に向けて	言語・文学委員会古典文化と言語分科会	文				
2020/06/30	原子力安全規制の課題とあるべき姿	総合工学委員会原子力安全に関する分科会	文(規制庁)				
2020/06/23	長寿社会における脱炭素健康住宅への道筋	環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同長寿・低炭素化分科会	総、外、環、 経、国、環				
2020/06/23	初等中等教育および生涯教育における地球教育の重要性:変動する地球に生きるための素養として	地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会					
2020/06/19	地球温暖化対策としての建築分野での木材利用の促進	農学委員会林学分科会	国、文、林				

「緊急・災害」緊急に科学的助言が求められる事態や災害対応について提言するもの。「法令・計画」法令・計画への反映について提言するもの。「組織・予算」組織や予算の拡充について提言するもの。「国際関係」国際的な課題について提言するもの。

# (参考) 提言一覧 (第24期)

決定年月日	名 称	表出の主体	取組想定 省庁	備考			
				緊急・ 災害	法令・ 計画	組織・ 予算	国際 関係
2020/06/18	科学的エビデンスを主体としたスポーツの在り方	科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会	文、スポーツ庁				
2020/06/17	低平地等の水災害激甚化に対応した適応策推進上の重要課題	土木工学・建築学委員会気候変動と国土分科会	府、国				
2020/06/16	パワーレザ―技術と高エネルギー密度科学の量子的飛躍と産業創成	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会	文				
2020/06/16	日本の停滞を打破し新産業創出を促す社会基盤と研究強化～応用物理からの提言～	総合工学委員会未来社会と応用物理分科会					
2020/06/03	オープンサイエンスの深化と推進に向けて	オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会	府、文、経、個 情委、文化庁 等				
2020/05/26	災害が激化する時代に地域社会の脆弱化をどう防ぐか	地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会及び土木工学・建築学委員会 IRDR分科会	国				
2020/05/12	長期の温室効果ガス大幅排出削減に向けたイノベーションの加速	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会	官房、経、環、 文				
2020/04/16	アフリカ豚熱対策に関する緊急提言	危機対応科学情報発信委員会 医療・健康リスク情報発信分科会、食料科学委員会 獣医学分科 会、農学委員会・食料科学委員会合同 食の安全分科会	農、環、厚、 府、文、国、 法、防				
2020/04/15	アディクション問題克服に向けた学術活動のあり方に関する提言	臨床医学委員会アディクション分科会、同脳とこころ分科会、基礎医学委員会神経科学分科会	官房、厚、文、				
2020/04/07	マイクロプラスチックによる水環境汚染の生態・健康影響研究の必要性とプラスチックのガバナ ンス	健康・生活科学委員会・環境学委員会合同環境リスク分科会	環				
2020/03/27	ゲノム編集技術のヒト胚等への臨床応用に対する法規制のあり方について	科学者委員会 ゲノム編集技術に関する分科会	府、文、厚等				
2020/03/13	口腔疾患の予防・治療・保健教育の場を喫煙防止・禁煙支援に活用すべきである	健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会	厚、文等				
2020/01/30	第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(マスタープラン2020)	科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会	文等				
2020/01/15	専攻医募集シーリングによる研究力低下に関する緊急提言	臨床医学委員会	厚、文				
2019/11/22	歴史的思考力を育てる大学入試のあり方について	史学委員会 中高大歴史教育に関する分科会	文				
2019/11/18	持続可能な生命科学のデータ基盤の整備に向けて	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員 会合同バイオインフォマティクス分科会					
2019/11/06	第6期科学技術基本計画に向けての提言	科学者委員会 学術体制分科会	府、文等				
2019/09/19	CT検査による画像診断情報の活用に向けた提言	臨床医学委員会放射線・臨床検査分科会	厚				
2019/09/12	日本紅斑熱・SFTSなどのダニ媒介感染症対策に関する緊急提言	基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会					
2019/07/02	ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会及び臨床医学 委員会臨床ゲノム医学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会、臨床医学委員会腫瘍分科会					
2019/05/20	我が国における微生物・病原体に関するリテラシー教育	基礎医学委員会病原体分科会	文				
2019/04/16	免震・制振のデータ改ざん問題と信頼回復への対策	土木工学・建築学委員会					
2019/04/09	衛生害虫による被害の抑制をめざす衛生動物学の教育研究の強化	農学委員会応用昆虫学分科会、食料科学委員会獣医学分科会、基礎医学委員会病原体学分科 会					
2019/02/14	学協会に係る法人制度 運用の見直し、改善等について	科学者委員会学協会連携分科会	府				
2018/12/26	ハッブルの法則の改名を推奨するIAU決議への対応	物理学委員会IAU分科会、物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会					
2018/12/14	生きる力の更なる充実を目指した家庭科教育への提案 より効果的な家庭科教育の実現に 向けて	健康・生活科学委員会家政学分科会					
2018/11/28	産学共創の視点から見た大学のあり方ー2025年までに達成する知識集約型社会ー	科学と社会委員会政府・産業界連携分科会	府、文、経、 総、厚、農				
2018/11/07	サマータイム導入の問題点:健康科学からの警鐘	基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同生物リズム分科会					
2018/09/13	社会的つながりが弱い人への支援のあり方について 社会福祉学の視点から	社会学委員会 社会福祉学分科会	厚				
2018/08/16	研究と産業に不可欠な中性子の供給と研究用原子炉の在り方	総合工学委員会 原子力安全に関する分科会	文				
2018/01/22	生物多様性条約及び名古屋議定書におけるデジタル配列情報の取扱いについて	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会合同遺伝資源分科会、農 学委員会・食料科学委員会合同農学分野における名古屋議定書関連検討分科会					

「緊急・災害」緊急に科学的助言が求められる事態や災害対応について提言するもの。「法令・計画」法令・計画への反映について提言するもの。「組織・予算」組織や予算の拡充について提言するもの。「国際関係」国際的な課題について提言するもの。

# 提言活動などの今後の方針

# 学術会議内外からの意見等を踏まえた「提言等」科学的助言の活用に向けて： 現状と課題

- ü 審議会の増加、総合科学技術会議（現 総合科学技術・イノベーション会議）設置などに伴い、諮問の減少（＝答申の減少）、学術研究者側からの科学的分析を前提とする提言発出の増加
- ü 学術会議の知的資源が社会において効果的に活用されるために、上記会議等の機能の相補的關係を明確にする必要
- ü 学術会議としての改善の観点：
  - ア 学会等で発出すべきものと学術会議として発出するものの区別の明確化
  - イ 学術会議にふさわしいもの《・分野横断的な議論を行い、・俯瞰的/総合的な観点で、・中長期的あるいはグローバルな課題に応えるもの》への重点的取組
  - ウ 提言等を受ける相手（名宛人）を明確化した上で、適切な意見交換を実施（提言等とは異なる判断をした場合の説明を求めることが可能になる関係の構築）
  - エ 研究者間や社会の中で見解の相違があるテーマに関する公平な検討
- ü 社会における学術会議の知的資源活用のための提案：
  - ア 学術会議の知的資源活用に関する方策の検討
  - イ 学術会議との意見交換の実施
  - ウ 学術の観点からの批判的見解の活用
- ü 主要国のアカデミーにおける科学的助言とその活用に関する現状と課題の認識共有の必要性

# 科学的助言機能の改革について(1)

第25期においては、科学的助言のあり方の改革について、幹事会を中心に、会員とともに検討を重ねてきた。去る4月総会での取りまとめを踏まえ、今後、あり方の改革の具体化を目指している。

第25期開始

(R2(2020)年10月)

改革に着手

R2(2020)年12月 幹事会からの依頼「第25期の分野別委員会、分科会等の活動について」(R2.12.24幹事会)  
・4月総会を待たず、幹事会から各委員会に対して、委員会での活動に当たっての留意事項を提示  
・人類的・社会的課題としての重要性、分野横断性  
・読者を想定した提言、提言への社会への発信方策 など

総会での報告書の承認

R3(2021)年4月 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(R3.4.22総会)  
・幹事会の取りまとめた改革案について総会で承認、井上大臣に提出  
・分野横断的な審議の仕組み、会長・幹事会が主導する仕組み  
・中長期的な科学的助言のあり方 など

改革の具体化

R3(2021)年6月 科学的助言機能・「提言」等のあり方の見直しについて(R3.6.24幹事会)  
・意思表示のあり方の見直し:総合的・中長期的課題の設定、委員会・分科会間の連絡会議 など  
・分科会の設置・活動の見直し:新規課題への対応、提言以外の活動の模索 など

今後、幹事会、部会で議論。議論を踏まえて、必要に応じて幹事会、総会での意思決定

## 幹事会からの依頼「第25期の分野別委員会、分科会等の活動について」

(R2.12.24)

1. 人類的、社会的課題としての重要性を備えたテーマを対象とした審議になっているか。  
三部制のメリットをいかして、分野横断的な議論を促すものとなっているか。
2. 日本の学術の振興の観点から行う審議の場合、学協会との連携がいかされたものになっているか。学協会での議論で代替可能なものになっていないか。
3. 分科会の活動内容は、上記1、2の観点から見て適切なものとなっているか。
4. 読者を想定した審議と提言等になっているか。
5. 提言等を社会に発信する際の方策について、具体的に検討しているか。

## 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて（R3.4.22総会）

課題設定から意思決定までのプロセスの改革

分野横断的な審議・提言の仕組み、緊急対応のための会長・幹事会主導の仕組み、  
分科会設置のあり方の見直し

# 科学的助言機能の改革について(3)

**目標** 学会が社会の要請や課題を先取りし、学術分野横断的に、総合的俯瞰的な観点から科学的助言を行えるような仕組みを構築する

## 見直しのポイント

### (1) 「意思の表出」のあり方についての見直し

- 「総合的・中長期的課題」に関わる提言発出とそのための仕組みの検討
- 総合的俯瞰的観点からの助言が必要とされる、学会が学術分野横断的に取り組む精選されたテーマの設定  
(Ex.カーボンニュートラル/ネットゼロ、研究力強化、次のパンデミックに向けた対策、トランスジェンダーと科学的助言etc.)
- 学会総体で取り組むために、関連する既存の委員会、分科会等間の「連絡会議」の設置
- 特に重要な課題については、総会事項である「勧告」の機能も活用

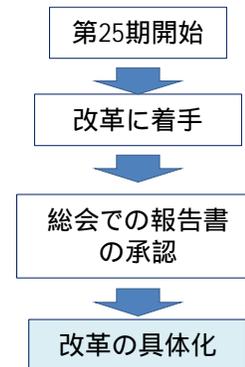
### 分科会からのボトムアップ型(専門的で分野連携的なもの)の「意思の表出」のあり方の検討

- 「提言」の発出がふさわしいのか、別の形での発出や取組がふさわしいのかの検討。  
「提言」以外に「報告」「記録」などの活用とその取扱い
- 「提言」とする場合、課題設定段階から「提言」発出の必要性等、事前に確認する等の仕組みの検討
- 「提言」とする場合の確認事項の明確化。例えば、1)個別分野のみに関わり学協会等で代替可能ではないか、2)読者・名宛人を明確に想定して立案しているか、3)ステークホルダーとの意見交換の場を設けているか、4)異論に対する公平な取扱いがなされているか、等々

### 緊急に科学的助言が求められる事態や外部からの依頼等に対応する提言の扱い

- これまでの経験をもとに幹事会で検討
- 政策関係者、産業界等との意見交換を通じた諮問・審議依頼等の積極的な受け入れ方法の検討

### インパクトレポートのあり方を含む、「提言」等の波及効果を確認・検証する方法の検討



## （２）分科会の設置及び活動の見直し

予算・人員などの条件も勘案しつつ、今期（第25期）中に可能なところから改善に着手し、次期（第26期）に向けて、設置される分科会等の適正数・適正規模（委員数）の検討を進める。

新規課題に適時に対応できるような分科会設置のあり方の検討

「提言」策定に特化しない分科会活動のあり方

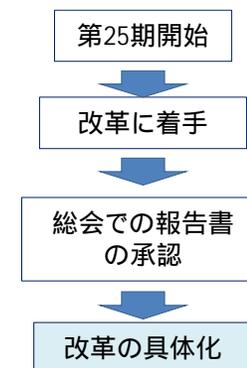
日本学術会議法に定められた任務等に関わる諸活動

- ・「科学を反映浸透させる活動」：公開シンポジウム、サイエンス・カフェ etc.
- ・「科学に関する研究の連絡」：学協会等との対話活動、国際学術団体への関与

### 見直しの手順（予定）

- 1）幹事会等での議論（中長期的課題候補の選定を含む）
- 2）部会等での議論
- 3）議論を踏まえて、幹事会決定等の見直し、必要があれば会則の変更を含む総会での決定

見直しの際に発出が予定される提言等については、（１）１）の見直し結果を踏まえ、それに準じた確認を行うことを検討



# 例：カーボンニュートラルに関連する取組

## ○ 直近の科学的助言

" 第24期では、関連する提言 3 件

ü2020.6.23 提言「長寿社会における脱炭素健康住宅への道筋」

ü2020.6.19 提言「地球温暖化対策としての建築分野での木材利用の促進」

ü2020.5.12 提言「長期の温室効果ガス大幅排出削減に向けたイノベーションの加速」

## ○ 現在の取組

- 関係するテーマを扱う**委員会・分科会**の間で**横断的な情報・意見交換や連携**を図るための「**委員会等連絡会議**」の仕組みを6月24日に整備。これを受けて、同日「**カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議**」を設置。
- 学術会議の**外部の方（研究者、経済界、市民社会など）との意見交換・情報交換**の場でも取り上げる予定

# 参考：学術フォーラム、公開シンポジウム、地方学術会議等

学術会議の活動は提言等の発出に限りません。

学術会議法第2条に基づく活動：社会に対する科学の反映浸透

## 学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催

- ・科学的・学術的な研究成果を市民に還元し、科学への理解を深めるため、また多くの関係者との意見交換の活動として、学術フォーラム、公開シンポジウム、学術講演会、サイエンスカフェ等を開催

【開催実績】 2020年：学術フォーラム8回、公開シンポジウム等61回  
2019年：学術フォーラム10回、公開シンポジウム等133回  
2018年：学術フォーラム5回、公開シンポジウム等102回

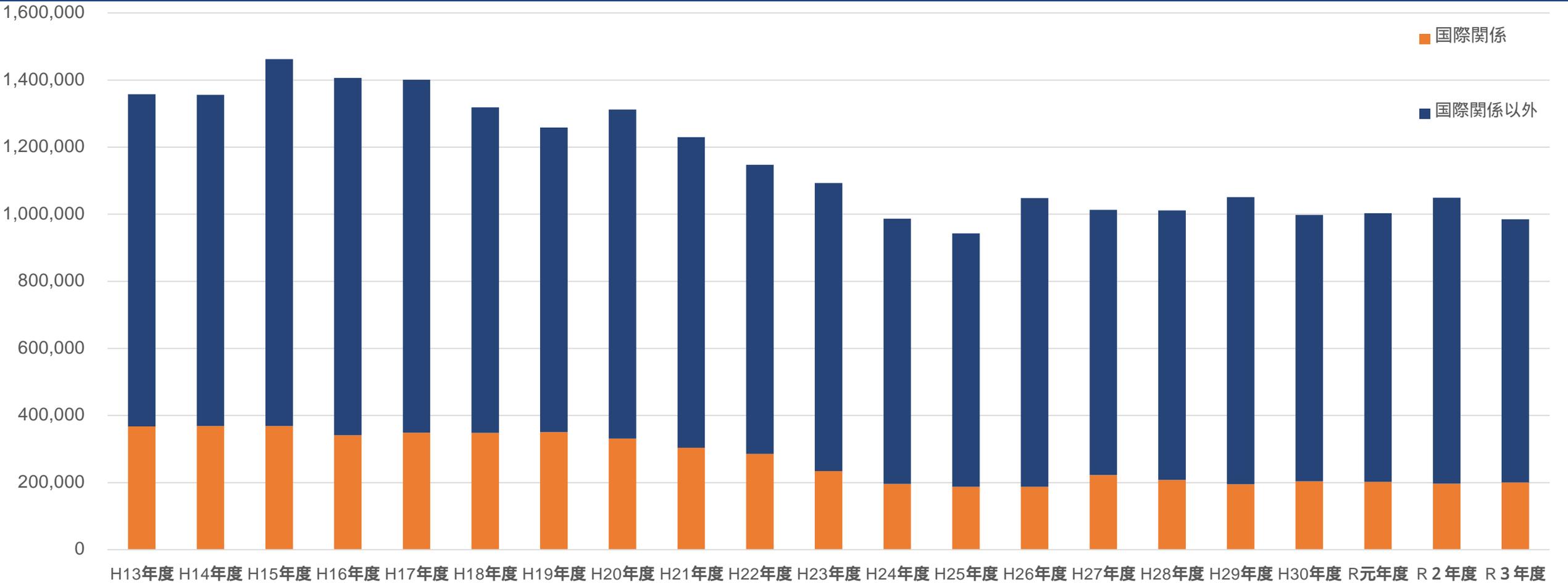
## 地方学術会議

- ・地方における学術振興を促進し、日本の学術のさらなる発展と地方創生への貢献を図るため、2018年から開催
- ・会長をはじめ幹事会メンバーが各地に出向き、科学者のみならず地域のリーダー等との意見交換を通じて地域の課題解決に貢献したり、若い世代の科学に対する興味・関心を喚起したりするような企画を実施

【開催実績】 2020年：「AI戦略の地方への展開 - 大学におけるデータサイエンス教育と地域連携」(山口県)  
2019年：「富山から発信する学術研究とSDGs対応」(富山県)  
「Society5.0で北海道が変わる」(北海道)  
2018年：「伝統文化と科学・学術の新たな出会い」(京都府)

**前回の会合での質問事項2：  
財政基盤について  
各国アカデミーの状況**

# 日本学術会議予算推移（平成13年度以降）



平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
当初予算	1,357,561	当初予算	1,355,878	当初予算	1,462,353	当初予算	1,406,052	当初予算	1,400,670	当初予算	1,318,791	当初予算	1,258,427
うち国際関係	367,271	うち国際関係	368,445	うち国際関係	368,694	うち国際関係	341,228	うち国際関係	348,698	うち国際関係	347,951	うち国際関係	350,363

平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
当初予算	1,312,377	当初予算	1,229,528	当初予算	1,147,195	当初予算	1,092,871	当初予算	986,672	当初予算	942,697	当初予算	1,048,178
うち国際関係	331,419	うち国際関係	303,680	うち国際関係	285,539	うち国際関係	234,010	うち国際関係	196,309	うち国際関係	183,601	うち国際関係	187,582

平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
当初予算	1,013,134	当初予算	1,011,011	当初予算	1,051,177	当初予算	998,014	当初予算	1,002,832	当初予算	1,048,960	当初予算	984,964
うち国際関係	222,356	うち国際関係	208,173	うち国際関係	195,061	うち国際関係	204,011	うち国際関係	202,343	うち国際関係	196,991	うち国際関係	200,119

# 日本学術会議令和3年度予算

事 項	予算額	主な内容	(単位:百万円)
	985		
科学に関する重要事項の審議等に必要な経費	449		
1. 政府・社会等に対する提言等	236	審議関係費等 地方学術会議	232 4
2. 各国アカデミーとの交流等の国際的な活動	200	国際学術団体への貢献 内訳 (1) 分担金 (2) 代表派遣 多国間のアカデミー会議 国際会議・シンポジウムの開催 一般事務費	125  107 18 31 41 4
3. 科学の役割についての普及・啓発	6	学術情報資料収集連絡費 科学・技術コミュニケーションフォーラム	2 4
4. 科学者間ネットワークの構築	7	学術研究団体に関する審議等 地方活動の充実強化	1 7
日本学術会議の運営に必要な経費	536		
		人件費 一般事務費(学術調査員に係る経費を含む) 学術会議情報化推進経費	421 107 8

(注) 計数は、それぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは合致しないものがある。



# アカデミー会長経験者等との意見交換会など 国際活動について

# アカデミー会長経験者等との意見交換会

開催趣旨：海外のアカデミー会長経験者等から、アカデミーの運営や、社会との関係構築、政府への政策提言等の経験を聞き、また日本学術会議へのアドバイスを聞き、今後の日本学術会議がより良い役割を発揮するための方策を探る。

開催日程(第1回目)：令和3年7月(予定) オンライン

出席者(調整中)

海外有識者：英国王立協会、カナダ王立協会、ドイツ科学アカデミー・レオポルディーナ等、海外アカデミーの元会長や政府への政策提言責任者を予定

日本学術会議会長、副会長 等

# 各国アカデミーとの国際的な活動

## 国際学術団体への加盟(44団体)・貢献

国際学術団体 にナショナルアカデミーとして加盟し、世界の学会と連携。人的・財政的に貢献。

分担金:1.1億円

命名権や国際基準等のルールメイキングに貢献

国際学術会議(ISC)、インターアカデミーパートナーシップ(IAP)、IAU(国際天文学連合)、IUPAC(国際純正・応用化学連合)、IUPAP(国際純粋・応用物理学連合)、IUBS(国際生物科学連合)、IUGS(国際地質科学連合)など

## 代表派遣

国際学術団体が主催する国際会議等に、学術会議の会員等を派遣

(実績) R元年度 35会議46人、R2年度 28会議48人、R3年度 37会議58人(予定)(オンライン含む)

日本の学術の動向の発信、団体の運営への参画、世界の学術に関する動向の把握

## Gサイエンス学術会議・サイエンス20(S20)

○G7やG20各国の科学アカデミーが、サミットに向けて、人類社会が直面する諸課題に対する科学的な政策提言のための共同声明を作成し、各国政府首脳へ提出。

○日本学術会議は、日本代表として参加

R2年度Gサイエンスは、**ネットゼロと気候変動**等の議論。

## アジア学術会議(SCA)の運営・開催

○アジア地域での学術交流と協力を促進するための基盤として、**アジア18カ国・地域の学術機関**で構成

○日本学術会議が事務局となり、学術機関・省庁・研究機関と連携して活動を推進。

○R元年度は、「**アジアにおける持続可能な開発のための研究とイノベーション**」、R3年度は、「**ニューマテリアルの時代：持続可能な社会のためのイノベーション**」をテーマに開催。

## 国際シンポジウムの開催

○地球規模の課題解決のため、世界各国から研究者の参加を得て「**持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議**」を毎年度開催。

○R2年度は、「**グローバル時代の包摂を考える - COVID-19後の持続可能な社会**」をテーマに開催。ISC会長等も出席。

R3年度は、「**カーボンニュートラル/ ネットゼロ**」をテーマに開催予定。

## 国際学術会議の共同主催

我が国で開催される**重要な国際学術会議**について、学術研究団体と共同で主催。(うち数件の会議は、**皇室ご臨席**)

○令和2年度は、「**第29回人工知能国際会議**」を開催。  
令和元年度は**6件**開催。令和3年度は**6件**を開催予定。



# 参考：各国アカデミーとの連携例、共同声明の発出（1）

## Gサイエンス学術会議

開催年	主催	共同声明テーマ
令和3年	英国王立協会	<p>テーマ1：A net zero climate-resilient future - science, technology and the solutions for change (ネットゼロと気候変動影響に備えた未来 科学・技術と変化のための解決策)</p> <p>テーマ2：Reversing biodiversity loss - the case for urgent action (生物多様性の損失を食い止めるために 早急な対策の必要性)</p> <p>テーマ3：Data for international health emergencies: governance, operations and skills (世界的な公衆衛生上の緊急事態のためのデータ：ガバナンス、オペレーション、スキル)</p>
令和2年	全米科学アカデミー	<p>テーマ1：Basic Research (基礎研究の重要性)</p> <p>テーマ2：Digital Health and the Learning Health System (健康推進への情報技術の活用：デジタルヘルスとラーニングヘルスシステム)</p> <p>テーマ3：Global Insect Declines and the Potential Erosion of Vital Ecosystem Services (地球規模での昆虫減少による生態系サービスの消失)</p> <p>テーマ4：The Critical Need for International Cooperation during COVID-19 Pandemic (新型コロナウイルス感染症の世界的流行に係る国際協力の緊急的必要性について)</p>
令和元年	フランス科学アカデミー	<p>テーマ1：Science and Trust (科学と信頼)</p> <p>テーマ2：Artificial intelligence and society (人工知能と社会)</p> <p>テーマ3：Citizen science in the Internet era (インターネット時代のシチズンサイエンス)</p>

# 参考：各国アカデミーとの連携例、共同声明の発出（2）

## サイエンス20（S20）

開催年	主催	共同声明テーマ
令和3年 （予定）	イタリア・リンチェイ国立アカデミー	Pandemic preparedness: the role of science（パンデミックへの備えと科学の役割(仮訳)） 同時に、今回初めてSSH20（Social Sciences and Humanities 20）も開催予定 テーマ：Crises: economy, society, law and culture Towards a less vulnerable humankind （危機：経済、社会、法、文化 人類の脆弱性を減らすために(仮訳)）
令和2年	キングアブドゥルアジズ科学技術都市（サウジアラビア）	全体テーマ：Foresight: Science for Navigating Critical Transitions （展望：重大な転換へと導くための科学） テーマ1：Future of Health: Promoting wellbeing and expanding personalized healthcare （健康の未来：福利の促進と個人の健康管理の拡大） テーマ2：Circular Economy: Holistic Solutions for our Environment （循環型経済：私たちの環境に対する総合的解決策） テーマ3：Digital Revolution: Achieving Universal Connectivity and Smarter Communities （デジタル革命：ユニバーサルなつながりとよりスマートなコミュニティの実現） テーマ4：Connecting the Dots: from Science to Action（点をつなげて：科学から行動へ）
平成31年	日本学術会議	Threats to Coastal and Marine Ecosystems, and Conservation of the Ocean Environment with Special Attention to Climate Change and Marine Plastic Waste （海洋生態系への脅威と海洋環境の保全 - 特に気候変動及び海洋プラスチックごみについて - ）